

ESD（持続可能な開発のための教育）に関する認知度・意識調査

アンケート期間：平成 29 年 7 月 3 日～7 月 18 日（16 日間）

調査目的：環境教育では、「ESD（持続可能な開発のための教育）」の考え方が重要であるため、その認知度や意識調査を実施する。

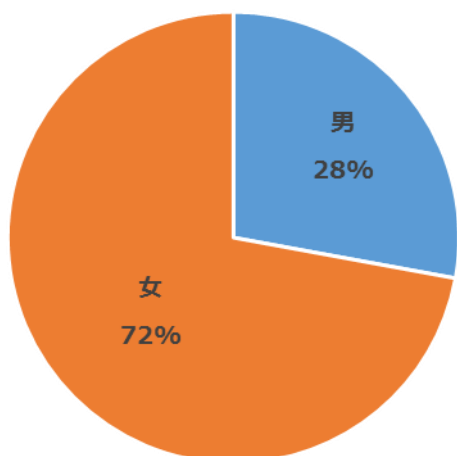
調査対象：ながさきWEB県政アンケート全モニター 396 名

回答状況：回答者 355 人（回答率 89.6%）

調査担当課：環境部環境政策課

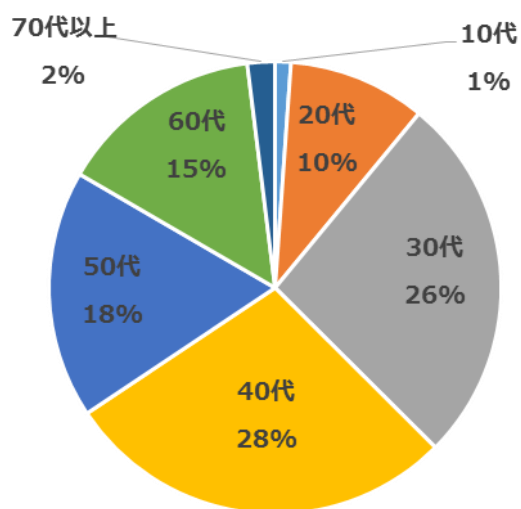
※小数点以下第 1 位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

■回答者の属性



男女構成割合

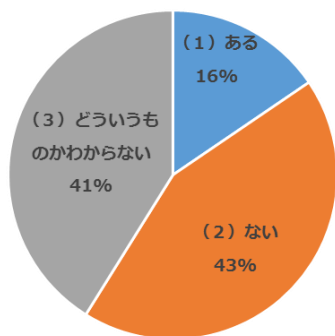
区分	人数	構成割合 (%)
男	99	28
女	256	72
合計	355	100



年齢区分別構成割合

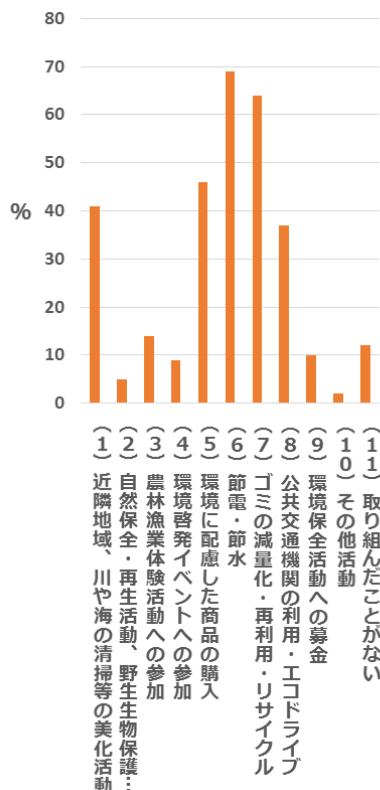
年齢区分	人数	構成割合 (%)
10代	4	1
20代	35	10
30代	94	26
40代	100	28
50代	63	18
60代	52	15
70代以上	7	2
合計	355	100

Q1. あなたは、環境教育を受けたことがありますか。



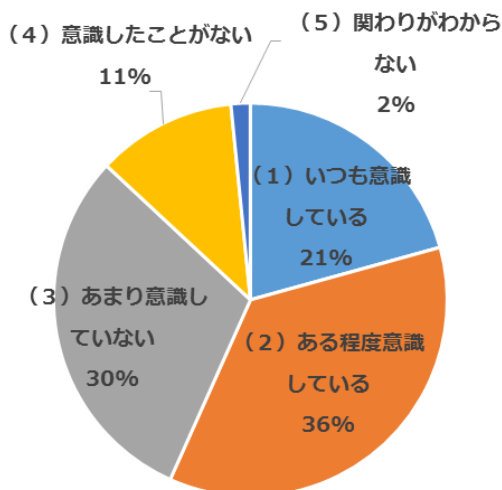
選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) 受けたことがある	55	15
(2) 受けたことがない	154	43
(3) 環境教育がどのようなかわからない	146	41
合計	355	

Q2. あなたはこれまでにどのような環境保全活動に取り組んだことがありますか。(複数選択可)



選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 近隣地域、川や海の清掃等の美化活動	147	41
(2) 自然保全・再生活動、野生生物保護活動	18	5
(3) 農林漁業体験活動への参加 (例：稲刈り、木工教室への参加など)	50	14
(4) 環境啓発イベントへの参加	33	9
(5) 環境に配慮した商品の購入 (例：詰め替え用、エコマーク商品など)	162	46
(6) 節電・節水	245	69
(7) ゴミの減量化・再利用・リサイクル	227	64
(8) 公共交通機関の利用・エコドライブ	132	37
(9) 環境保全活動への募金	36	10
(10) その他活動	6	2
(11) 取り組んだことがない	41	12

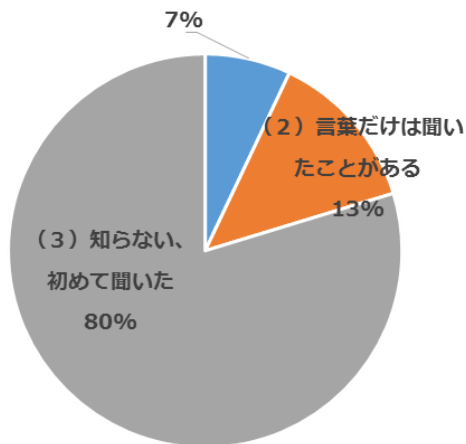
Q3. 質問2で(1)～(10)を選択された方にお伺いします。環境保全活動に取り組む際、その活動が地域や世界の環境以外の問題(貧困、人権、平和、開発など)とも関わっているということ意識したことがありますか。



選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) いつも意識している	65	21
(2) ある程度意識している	113	36
(3) あまり意識していない	95	30
(4) 意識したことがない	36	11
(5) 関わりがわからない	5	2
回答対象者	314	

Q4. あなたは ESD（持続可能な開発のための教育）という言葉をご存知ですか。

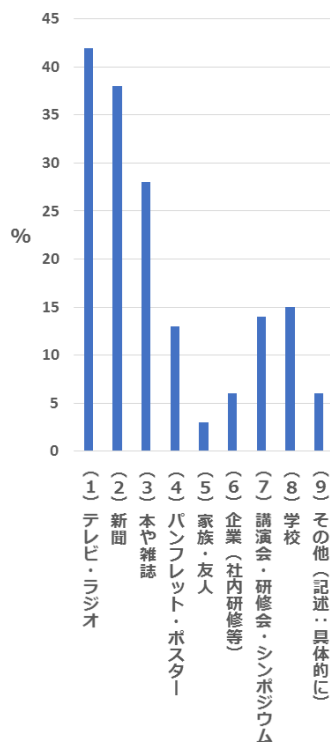
(1) 意味もある程度わかるし、知っている



選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) 意味もある程度わかるし、知っている	25	7
(2) 言葉だけは聞いたことがある	47	13
(3) 知らない、初めて聞いた	283	80
合計	355	

Q5. Q4 で (1)、(2) を選択された方に伺います。

あなたは、ESD について、どこで知りましたか。(複数選択可)

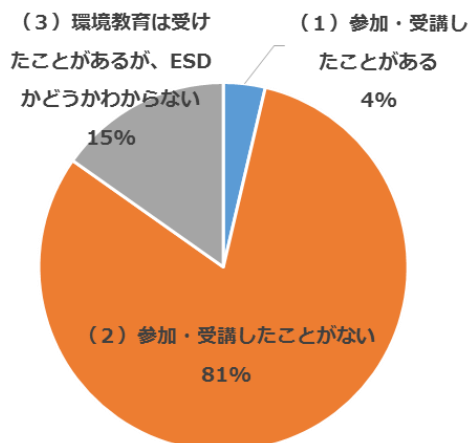


選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) テレビ・ラジオ	30	42
(2) 新聞	27	38
(3) 本や雑誌	20	28
(4) パンフレット・ポスター	9	13
(5) 家族・友人	2	3
(6) 企業(社内研修等)	4	6
(7) 講演会・研修会・シンポジウム	10	14
(8) 学校	11	15
(9) その他(記述:具体的に)	4	6
回答対象者数	72	

※割合 (%) : 回答対象者 72 人を 100 とした時の割合

- < (9) その他意見 (一部要約) >
- ・ Web ニュース、メーリングリスト
 - ・ 環境教育審議会
 - ・ 覚えていない
 - ・ 文部科学省のホームページ

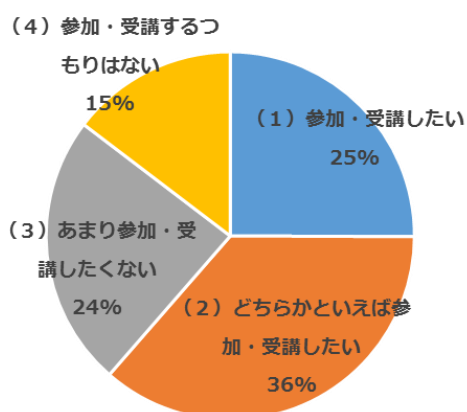
Q6. あなたは、これまでに ESD の考え方を取り入れた環境教育に参加または受講したことがありますか。(講師の場合を含む) ◎ESD (持続可能な開発のための教育) とは Education for Sustainable Development の略で、環境教育の重要な考え方の一つです。これは世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題がある中で現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組みことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のことです。



選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) 参加・受講したことがある	13	4
(2) 参加・受講したことがない	288	81
(3) 環境教育は受けたことがあるが、ESDかどうか分からない	54	15
合計	355	

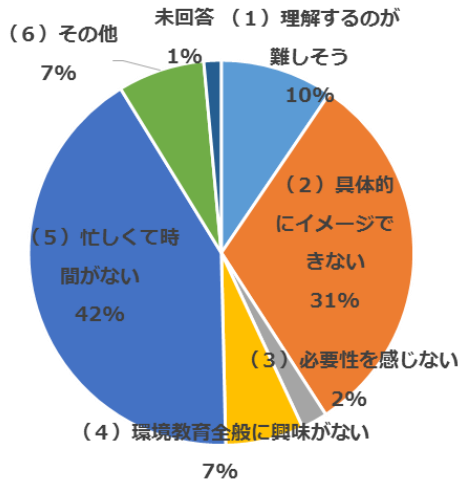
注) Q1 の (1) と Q6 の (3) は一致しない場合あり

Q7. あなたは、ESD の視点を取り入れた環境教育が実施された場合、参加・受講したいと思いますか。 ◎ESD の視点とは、多様性、相互性、有限性、公平性、連帯性、責任性などから課題を見出し、解決するために必要な批判的に考える力・未来像を予測して計画を立てる力・多面的に総合的に考える力・コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度・つながりを尊重する態度・進んで参加する態度などの能力を身につけようとするものです。



選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) 参加・受講したい	89	25
(2) どちらかといえば参加・受講したい	129	36
(3) あまり参加・受講したくない	85	24
(4) 参加・受講するつもりはない	52	15
合計	355	

Q8. Q.7 で (3)、(4) を選択された方に伺います。ESD の視点を取り入れた環境教育をあまり参加・受講したくない、参加・受講するつもりはないと思った 1 番の理由はなにですか。



選択肢	回答者数	割合 (%)
(1) ESDは理解するのが難しそうだから	13	9
(2) ESDの具体的な活動をイメージできないから	43	31
(3) ESDの必要性を感じないから	3	2
(4) 環境問題全般に興味がないから	9	7
(5) 忙しくてESDに参加・受講する時間がないから	57	42
(6) その他 (記述)	10	7
未回答	2	1
回答対象者数	137	

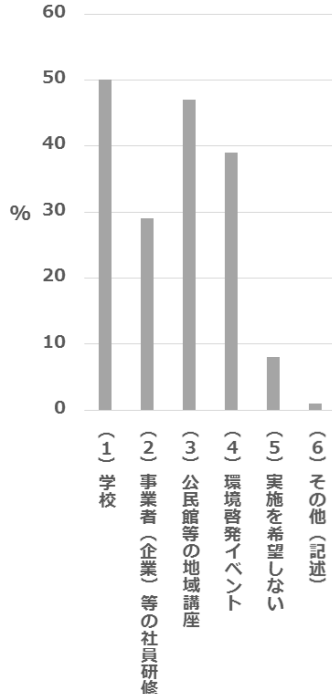
※割合 (%) : 回答対象者 137 人を 100 とした時の割合

<Q8. (6) その他意見 (一部要約) >

- ・小さい子どもがいるから。 ・受講とかだと特別な感じ、難しそう。
- ・危険な団体が関与していそうだから。 ・全くわからない (ESDが初めて聞く言葉)。
- ・新聞や雑誌、TV を利用すれば家に居ながら知識を得ることが出来ると思うから。
- ・日常生活でそれなりに関心を持って実行しているから。
- ・内容はほぼ予測がつく、昔興味があったので知っていることが多い。
- ・資格証明書または認定書など、会社に出せるようであれば、休んででも受講したい。
- ・学生が幼少期から学ぶべきことではないか? 「ESD・環境教育」と格好良さそうな言葉を使っているが、身に着けて自然にできるようにするものではないか?
- ・あれこれ言葉をつけるよりもっとシンプルで単純でいいのでは。

Q9. ESD の視点を取り入れた環境教育が実施される場合、どのような場での実施を希望しますか。

(複数選択可)

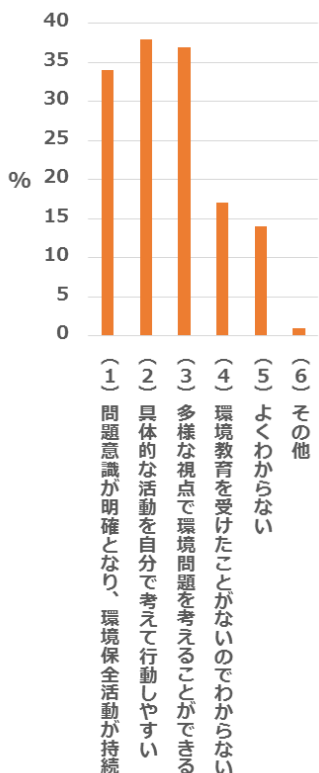


選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 学校	177	50
(2) 事業者 (企業) 等の社員研修	104	29
(3) 公民館等の地域講座	167	47
(4) 環境啓発イベント	137	39
(5) 実施を希望しない	28	8
(6) その他 (記述)	5	1

<Q9. (6) その他意見 (一部要約) >

- ・駐車場がある会場。
- ・職場で昼食休憩中に研修 (ESD のために特別に時間を捻出するかと言われれば、優先順位は低い)
- ・パンフレットや本等により、空いた時間で取り組める方がよい。
- ・わからない (時と場合による、答えようがない)

Q10. ESD の視点を取り入れた環境教育を受講することにより、通常環境教育よりも環境保全に対する考え方が変化すると思いますか。(複数選択可)

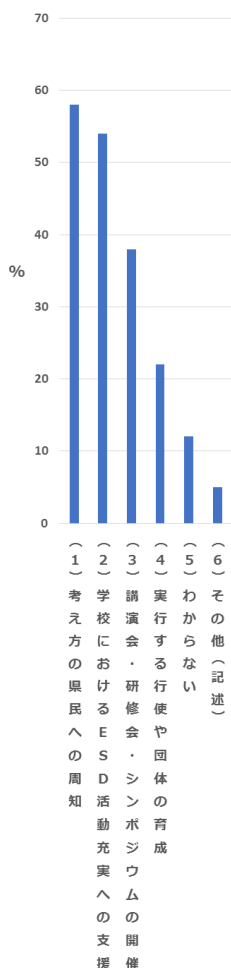


選択肢	回答数	割合 (%)
(1) 問題意識が明確となり、環境保全活動が持続しやすいと思う	120	34
(2) 具体的な活動を自分で考えて行動しやすくなると思う	136	38
(3) 多様な視点で環境問題を考えることができるようになると思う	132	37
(4) 環境教育を受けたことがないのでわからない	61	17
(5) よくわからない	51	14
(6) その他(記述)	3	1

< (6) その他意見 (一部要約) >

- ・学生の教育課程の中で、意識させるよう教育の一環に取り入れた方がよい。(個人の考えは変えようがない、無理な強要はかえって重荷)
- ・ESD に個人的に反対。(ESD の趣旨、目的は理解しているが、既に地球人口が許容量の 150% (研究者によっては 200%) を突破している現在において、ESD は富者の「免罪符」となりかねない)
- ・幼少期 (幼稚園) から実行すべき。(理解できるような工夫を)

Q11. より多くの方に ESD へ参加していただくには、県のどのような取組みが効果的だと思いますか。(複数選択可)



選択肢	回答数	割合 (%)
(1) ESDの考え方の県民への周知	205	58
(2) 学校におけるESD活動充実への支援	192	54
(3) ESDを取り入れた講演会・研修会・シンポジウムの開催	134	38
(4) ESDを実行する行使や団体の育成	79	22
(5) わからない	44	12
(6) その他(記述)	16	5

<Q11. (6) その他意見 (一部要約) >

- ・テレビ等での講習。
- ・幼稚園から保護者も巻き込んだ取組。
- ・企業への啓蒙と社員の参加を図る取組。
- ・子供会・学童保育等の校外の社会活動等での取り組み。(新聞等では教員の加重負担が問題視されているので、児童生徒を対象に学校で学ばせるのは安易、職員への負担が大き過ぎる。)
- ・ESDを取り入れた、子供や若い親・主婦などが参加しやすいイベント。
- ・楽しいイベントなどで、「実はこれはこういう趣旨のもので、他にもこんなことができます」など説明し、体験しながら楽しんで理解してもらえるような物。(冠に ESD とつくと、難しく敬遠されがち。)
- ・広報紙等で特集を組み、老若男女の目に触れる機会の提供。(そのような取組をしている施設や講座の案内も)
- ・市政だよりや学校などで、教育的でないマンガコラムやアニメで周知。(敷居が低く取組み易い、難しい言葉使うと拒絶反応が起きる方もいる)
- ・現状の農業や漁業の体験だけでなく、農薬・ホルモン剤などを使用しない農業・漁業の仕組みの教育が必要。(農・漁業者向け教育が優先、消費者にはその趣旨に合致した食料を購入するように教育啓発が必要。)
- ・石木ダムや諫早湾などの事例を参考に、県のトップも参加、意識の改革に取り組む必要がある。
- ・ESD の言葉そのものを知ってもらうことから始めたほうが良い。
- ・ESD という言葉を変え、簡単に頭に入るような言葉で講演などをしてほしい。
- ・県民への周知。(漢字が多いと敬遠する人が多い、逆に ESD と書かれても分からない。県がなぜ取組もうとしているのか意図が不明。)
- ・ESD をあまりにも恰好良く啓蒙している、自然体で何故行動出来ないのか。頭でっかちは環境には不必要では。(体験から環境を自然と考えるもの)
- ・ESD に参加しなくとも環境保全のためのもっと身近で具体的な講習会は参加も多いと思う。(大人は ESD の学びで極端な考え方になる人も出てくる恐れがある、長崎は良くも悪くも原爆問題があり一致団結する能力があるから)
- ・個人的には ESD に反対。むしろ現状がいかに危機的で、現在の状況では確実に絶望的な未来があることを科学的データとともに国民に開示し、種レベルでの存続を望むか、弥縫的な対策を施し死期を伸ばすか、現状の贅沢を手放さず座して死を待つかを選択させるべき時期になっていると思われる。